

平成29年度外部評価後の対応状況表

事業又は施策名【担当課】		
③放課後児童クラブ事業【子育て支援課】		
外部評価実施後の委員意見及び担当課回答		その後の対応状況
委員コメント	担当課回答 (平成29年9月時点)	担当課の対応状況 (平成30年6月時点)
児童クラブ以外に同様の事業として学童保育および子ども教室があり、それらを管轄している事業と捉えられるので、事業内容に沿った事業名称にする。これら3つの事業を個別に実施するのではなく、一体型として実施することは、行政資源を有効に活用することができるので、国の縦割りを打ち破る事業として進めることが望まれる。そのためには、市民協働を積極的に進めて行くことが必要である。	現在、児童クラブと学童保育所については、共働きなどによる留守家庭の児童の預かりとして、また放課後子ども教室は地域の人材の参画を得て、保護者の就労に関係なく、学びや体験、文化活動などをする場として、それぞれ機能しています。また、現在、市の方針としては、国の放課後子ども総合プランに基づき、児童クラブと子ども教室の一体型としての整備を進めていますが、これらの3事業には、運営内容に類似性があり、保護者の就労状況やニーズも変化しているものと考えています。このため、これらの事業の新たな形態に関して、保護者のニーズを把握した上で、中長期的な視点で検討していく必要があると考えています。	現在、放課後の子どもの居場所に関する3事業(児童クラブ、学童保育所、放課後子ども教室)については、国の放課後子ども総合プランに基づき、長久手市子ども・子育て支援事業計画において、「平成31年度までに全小学校区で放課後子ども教室を実施し、うち3校での一体型を実現する」としています。なお、今後の児童数の増加状況や放課後の居場所に対するニーズについて、長久手市では、国が想定するものとは違う傾向であると考えられるため、これらの事業の新たな形態について、次期子ども子育て支援事業計画を策定する中で市の特徴に合わせたものを検討していく必要があると考えています。
待機児童の数を減らすということが大切であると思いますが、現状は保育士の確保の問題や児童クラブや学童保育所の場所の利便性の問題など、簡単な解決法はないようにも思われます。他部署との協働可能性を探ってみるということも大切なのかもしれません。また、受け入れの割合を成果指標とすることも大切だと思いますが、同時に放課後児童クラブ事業の質の確保という点からも、利用者の満足度、利用者との信頼関係なども視野に入れるということもよいかもしれません。	・事業の質の確保については、児童クラブや放課後子ども教室の利用者(児童・保護者)の満足度を測るため、アンケートの実施を考えています。	事業の質の確保について、平成29年12月に、放課後子ども教室利用の利用者(児童・保護者)に対し、ニーズ等を把握するためのアンケートを実施し、その結果を元に、運営面について改善を図ることができました。引き続き、児童クラブや放課後子ども教室の利用者に対して、アンケートの実施を考えています。

<p>放課後児童クラブ事業については、育児による離職者を無くする為にも今後も拡充をお願いします。</p> <p>また、地区によっては、待機児童が発生しておりますので、最善の対応をお願いします。</p> <p>一体化の推進にあたっては、既に実施されてます東小学校での利用者からの意見等を収集し、水平展開を図ってください。また、成果指標についても、利用者の満足度なども検討いただき、サービス向上に努めてください。</p>	<p>・児童クラブ事業については、事業目的等として「入所要件を満たす児童をすべて受け入れる」とあるように、待機児童の解消を目指し、引き続き事業を推進したいと考えます。</p> <p>・一体型の推進については、現在1小学校区で実施していますが、平成31年度までに3小学校区での実施を目指しています。</p> <p>・一体型にした効果や児童クラブ利用者の満足度については、児童クラブや放課後子ども教室の利用者(児童・保護者)に対する、アンケートの実施を考えます。</p>	<p>・児童クラブ事業について、当初入会承諾をした時点で待機児童が発生しました。</p> <p>このため、南・下山児童クラブでは、定員を超えた受入れを行った後、さらに運営に支障がない範囲で、再度追加で入会承諾をしました。</p> <p>次に、東児童クラブでは、これ以上の受入れ人数の拡充は難しいため、過去に児童クラブを開設していた上郷児童館内で、第2児童クラブを開設することにより、待機児童の解消を図りました。</p> <p>・一体型の推進については、現在、南・北小学校において、一体型を実現するための多目的棟の整備を進めています。</p> <p>・利用者の満足度については、平成29年12月に、放課後子ども教室利用の利用者(児童・保護者)に対し、ニーズ等を把握するためのアンケートを実施し、アンケート結果を元に、運営面について改善を図ることができました。</p> <p>引き続き、児童クラブや放課後子ども教室の利用者に対して、アンケートの実施を考えています。</p>
<p>・まずは、待機者「0人」が達成できるようにハード面の施策の推進も必要であるが、これと同時に、この「箱モノ」に対応する施設従事者の数と質の確保も行う必要があると思う。このため、これに関する課題、目標も設定して対応することが必要と思う。</p> <p>・施設利用者の声の把握、また分析、そしてそれをどう生かしている(いく)のか、つまり、「量」とともに「質」の把握、向上策がもっと見えるようにする必要があると思う。</p> <p>・設置場所についても、(学校内設置のものは除くとして)地域全体からの位置、また利用者の多い位置に近いかなど配慮も必要ではないか。</p> <p>・市直営の施設について、民間ノウハウがしっかりしたところへの委託化などの検討、も今後の課題また展開として加える必要があるのではないかと思う。</p>	<p>・市の条例の配置基準に基づき、質の確保を担保するため、安定した職員体制に向けて、引き続き努めていきます。</p> <p>・児童クラブや放課後子ども教室の利用者(児童・保護者)の声の把握するため、アンケートを実施したいと考えます。</p> <p>・児童クラブ、学童保育所の実施場所については、児童クラブは主に児童館の中、学童保育所は、父母会との協議により決定していますが、今後、新たに実施場所が増える場合は、指摘事項を配慮の上、決定したいと考えます。</p> <p>・現在のところ、児童クラブ事業の民営化は考えていません。</p>	<p>・安定した職員の確保に向けて、求人チラシを作成し、平成30年3月に新聞折込を実施しました。</p> <p>・平成29年12月に、放課後子ども教室利用の利用者(児童・保護者)に対し、その結果を元に、運営面について改善を図ることができました。</p> <p>引き続き、児童クラブや放課後子ども教室の利用者に対して、アンケートの実施を考えています。</p>

<p>放課後児童クラブと学童保育所は若い子育て世代にとってなくてはならない事業である。定員は1.65㎡/1人当たりで決まる。現状、児童クラブは定員340名入所者321名待機者58名(h28.4現在)。施設は南、下山、長久手、市が洞、東、西の6か所である。学童保育は定員290名、入所者266名、待機者はなし、施設は長久手、長南、北、市が洞の4か所である。一体型新規施設は、南h30、北h31を予定している。</p> <p>課題は2つ。一つは基本待機者ゼロを目指す本事業にとって、既設の拡張工事は困難。当面の対応は空き教室の利用を掲げるが、児童増加で足りない教室、即効性は期待できない。2つにイオンやイケアで雇用拡大する裏で、指導員も子育て主婦が殆ど、6時には帰宅し主婦業が待っている。必然的に不足がちになる。上記課題は何れもハードソフト両面で難題である。</p> <p>新規施設では児童増加の判断が数年で誤らないよう慎重な予想を期待したい。</p> <p>男女共同参画を叫ばれ昨今、住みよいまち首位の当市には、更に活性化する世代交代の好循環づくりに期待したい。</p>	<p>・現在、将来児童数の推計を見直しており、その結果が出ましたら、小学校区別に具体的な対策を考えていく予定です。</p> <p>この際、施設整備により定員を拡充する際は、将来児童数の推移を考慮に入れ、設定していきます。</p> <p>・指導員の確保についても、従来のホームページやハローワークによる求人募集以外の方法で、効果的に求人をする事ができないか、検討したいと考えます。</p>	<p>・児童クラブ事業について、当初入会承諾をした時点で待機児童が発生しました。</p> <p>このため、南・下山児童クラブでは、定員を超えた受入れを行った後、さらに運営に支障がない範囲で、再度追加で入会承諾をしました。</p> <p>次に、東児童クラブでは、これ以上の受入れ人数の拡充は難しいため、過去に児童クラブを開設していた上郷児童館内で、第2児童クラブを開設することにより、待機児童の解消を図りました。</p> <p>・指導員の確保については、求人チラシを作成し、平成30年3月に新聞折込を実施しました。</p>
--	---	--